

2008-1-27

## 受け取ってくださいね

私は一昨年の暮れから芦屋浜のペランダ(防波堤)で釣りを楽しむようになりました。きっかけは美津子さんの釣りに付き合ったことからでしたが、釣り始めて間もなく、6匹の太刀魚を釣り上げハマってしまいました。もちろんたった一人で釣り上げたのではなく、美津子さんの釣りの先生に手伝ってもらいながらでした。でも、たった一回の感動はそれ以後私を捉とらえて離さなくなり、今年もお正月から釣りを楽しみました。

今年は冬とは思えないほどの暖かい日が続く、二日から連日、魚は一匹も釣れなかったけれど、美しい海を見ながら釣り糸を垂れる幸せを実感していました。事務局休みが終わってから時間もつけては太刀魚釣りに出掛けていました。しかし、釣りの先生も言われていましたが、今年は去年に比べ極端に太刀魚が釣れなくなっているそうです。これも温暖化の影響でしょうか。私も去年一匹釣ったきりで、ボウズ(全く釣れない状態)を更新し続けています。

そんな時、美津子さんがガシラを釣り上げたというのを耳にしました。私があまりにうらやましそうにしたからでしょう。2、3日前の夕方頃に電話がかかってきました。「賀っちゃん、今ペランダにいるからね。もしよかったら来ない？ 餌も揃っているから待ってるよ！」とガシラ釣りに誘ってくださいました。

私は、「出掛ける時にまた電話します」と言って電話を切ったのですが、心の中では行こうか止めようか迷っていました。実はその日、朝から右足付け根の股関節あたりのリンパ腺が腫れてズキズキと疼いていました。美津子さんから声がかかるといつもなら喜んで飛んで行くのですが、その日はあまりに痛いので「行けません、祈ってください」とメールしました。

しかし暫くして、メールが返って来ないので、もしかしたらメールを見ないで私が行くのを待ってくださっているかも知れないと思い、今度は電話を入れました。電話に出た美津子さんは、「メール見たよ、無理しない方がいいよ」と言ってくださいました。

その瞬間でした、不思議な思いが来たのです。電話の向こうで美津子さんが祈ってくださったのが分かりました。しかも、「賀っちゃんの痛みがいやされるように」とあえて祈るというよりも、美津子さんが思っただけで(知っただけ)いやしの祈りが届いたという感じなのです。そして、その電話を切った直後から完全に痛みが取られてしまいました。少しずつ痛みが和らぐというより、まるで痛みなど無かったかのように完全にいやされてしまったのです。

こんないやしの体験は初めてでした。そして、私はこの時大切なことを主から教えられました。神様に知られるということがすでにいやしなのではないだろうか？ 今さらなのですが、こんなにもダイレクトに十字架が完成しているという実感がリアルに迫ったのは初めてです。

信仰の世界と現象世界との距離が無い一つの世界。私はピーター先生が「あがないの愛が見えるほどに現れる」と、去年黙示録コンサートの後言われていた言葉を思い出しました。

美津子さんはいやし礼拝や礼拝後の祈りの時、からだの各部にいやしが流れていると、そのひとつひとつをあげて、私たちに「受け取ってくださいね」と付け加

えられます。「たとえ今、自分の痛いところや病気を私(美津子さん)が言わなかったとしても主はいやしておられますからね。受け取ってくださいね」と。

いやしのカギは主が知っておられる。そのことを受け取ることなのだと思います。そしてそのことに目が開かれた時、私はあらためて、たとえ今目の前に大きな山があったとしても、その背後にいやしが完全に成っていることを信じられるようになりました。それは私の信仰(信じる力)で山を動かすのではなく、そこに山を動かしたいと願われる神の愛を見たからなのです。

私の上に起きた小さいいやしですが、主はこのことを通してこの痛んだ地球への信仰をお与えになりました。全てを知ってくださる主、キリスト・イエス様に心からの賛美をお捧げします。

するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできないことは、何もないであろう。」  
(マタイ 17:20)

私にとって釣りは、私の内なる至聖所に身をおくという思いがしています。傍に誰がいようがいまいが関係なく海に向かっていて、主の懐にすっぽりと包まれる平安があります。その時間ほとんど何も考えていないのですが、いつの間にか私の魂は主に向かっていきます。しかし釣りに行くと、いつも手放しで喜べない地球温暖化問題がその背後に横たわっていることを思わずにはいられません。

お正月、「ガイアの夜明け」というテレビ番組で地球温暖化についての様々な現象と世界の動向を特集をしていました。

その番組の中で、京都議定書でCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を6パーセント削減すると約束した日本が、その約束を今年果たすためのスタートを切ったと報じていました。しかし、今の状況ではお金を出してまで他国からCO<sub>2</sub>の許容枠を買い取らなければ約束を果たすことは不可能に近いのです。

数年前まで地球崩壊というまるで非現実的なことのように思われていた危機的状況はもう目の前に迫っている。そして、日本を含む先進国の欲望が、その要因の大半を占めていることを私たちは否定することができない。たとえ温暖化に拍車をかけるような環境汚染を続けていても、先進国の経済発展に追従する国々を誰が非難することができるだろうか？ と思います。人類の罪の連鎖はもう誰にも止めることができないところまで来ている。この現実を目の前にして、主が私を子羊の群れに呼び、託してくださった願いに立ち続けることができるか？ 地球崩壊に加担しないでは生きられない罪人の私を主はご自分の願いを果たすために呼ばれたのです。

今年一年「礼拝の年」、私の内なる至聖所、風の教会から十字架のあがないを全地に告知するのだと、あらためてこの群れに呼ばれ主の願いが託されたことに身が引き締まる思いになりました。

釣りを楽しむには絶好の暖かい陽射しの中に、私が主の悲しみを知る時、瀕死の地球にいやしが届いたことを信じます。

「受け取ってくださいね」主の祈りが迫ります。

2008年1月18日

水谷 賀津子